

愚図愚図散歩147 日日是好日130

2025.11.01.



制作・撮影 浦野俊之





今朝は小雨が降り、何処に来ようか迷いましたが、池袋に来てみると、中池袋公園で「池袋ハロウィンコスプレフェス」が開催され、幸い雨はやみ、観衆と一体になったコスプレイヤーが舞台でお披露目、楽しい時間を過ごしました。





下北沢駅が一新され、コンコースにはロマンスカーや男女のレリーフが設置されていました。以前は地味な構内でしたが新しく生まれ変わった下北を象徴するかのような壁画でした。



浅草寺の境内にお祀りされている被官稲荷神社では、小さな鳥居やお姿(鉄砲きつね)を奉納する風習があります。願掛けやお礼として大・小の白木の鳥居を奉納することができます。鳥居を奉納する意味としては「願いが通る、通った」という意味があり、被官稲荷神社でも願掛けやお礼として気軽に奉納することができます。境内の右側に、奉納された小さな鳥居が並んでいます。お姿(鉄砲きつね)とは、狐の形をした今戸焼という郷土玩具の土人形です。コピペ
(台東区浅草2-3-1)



浅草寺の寶蔵門脇の広場に井戸がありました。(台東区浅草2-3-1)



ラーメンやさんの豚の子看板可愛いな。(渋谷区幡ヶ谷2-48)



都電荒川線の軌道借受工事を行って居ます。と表示された地下道路トンネル工事現場です。都電の軌道が地下に潜る工事のようです。工事現場の凄い雰囲気ですが、これからどうなるか想像もできません。鬼子母神前駅を学習院下に向かう都電を見下ろしました。



黄色のハサミが目立つ床屋さん、サインポールは無しで壁にモザイク。この様な床屋さん初めて観ました。(北区西ヶ原3-59)



都会の風景(港区赤坂2-4)



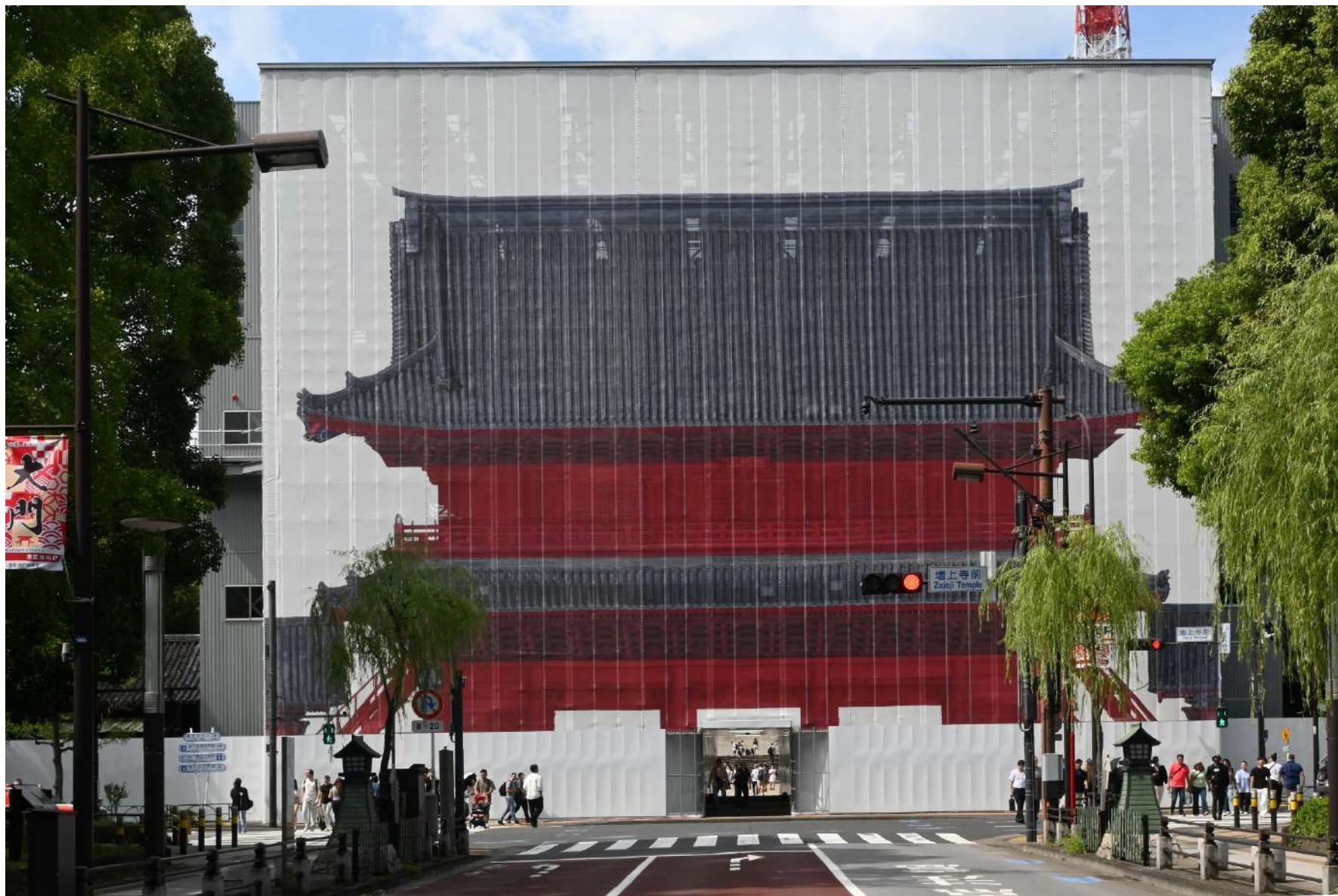
都会の風景(港区赤坂2-5)



特許庁前交差点の交通事故に出会いました。個人タクシーがひっくり返り、警視庁、消防庁から多数の警官、消防士等の赤ランプの自動車が集まり大騒ぎ、聞けば事故から15分位経った現場のようです。(千代田区霞が関3-4-3)



どのような状況で二台の自動車が発生したか分かりませんが、大変な事故で、自動車の運転は細心の注意が必要だと、改めて思いました。



流石増上寺、三解脱門改修工事のメッシュシートに三解脱門が実物大にペインティングされています。参拝者は三解脱門下の真ん中を潜り抜け本堂に向かいます。完了は令和14年11月までの大工事です。





熱中症に注意する暑い日が続きましたが、オオシロカラカサタケが唐傘を広げました。もう秋です。



まるで卵の殻を破って白身が出てきたようなキノコ。



一日でこの様に成長しました。



ハンモックの釣り下がった庭の駐車場で人体骨格が挨拶を送ってくれています。接骨医ではなく普通のお宅のようですが、この屋のご主人の趣味なのでしょうか？待てよ、ハローウィンなのかな？（練馬区旭町324）



ウインドウを覗いて驚きました。マネキンの頭に椅子が載せられて展示されています。違和感を感じ店内に入り、店員さんにお聞きしますと「今年のテーマは椅子なのです」なんで？ファッションが椅子なのですか？「何か判りませんがデザイナーが決めたのです」帰宅して調べると、『誰かのために無理して装うのではなく、服を纏う者が最高に贅沢な気持ちになれる服をブランドコンセプトに、本質の美は隠された所にあると考えます。着る人だけが感じる着心地の良さや身体のフィルムをあえて隠し創り上げるシルエット。それらを重要視し女性的な美しさを提案します。コピペ。』シュールな手法で、椅子にくつろげるゆったりとした衣装を表現したようです。(ENFOLD 千代田区丸の内2-2-3)



緑の館(足立区西新井栄町3-6)



どうしたのだろう、風でやられたのかしらと思い、飲み屋の店員さんにお聞きしますと、カラスにやられたとの答え、もう提灯はダメで、看板に替えようかと思って居るそうです。カラスの悪戯はここまで来たかの感があり、ごめんなさい笑ってしまいました。(北区赤羽1-12)



まだ黄葉は始まらず、地面に落ちて黄金色に敷き詰められるには早すぎそうです。しかし、実は十分に熟しているようです。





小石川植物園の温室で出会いました。ふさふさ毛深いヒトデのような星形の花が特徴の、南アフリカ原産のスタペリア・ヒルスタ今迄観た事のない、魅力的な多肉植物の花です。後で調べますと、花は1日位で終わってしまうので、一瞬の出来事に出会えたことの様に大変幸運だと思いました・



窓が赤いのに気が付きました。慌てて外に飛び出しましたが、やや遅く太陽はすでに沈んでいましたが、久しぶりの空一面真っ赤な夕焼けでした。



とげぬき地蔵尊で有名な高岩寺の境内に建つ高岩寺信徒会館に入ると、東北地方復興支援として、伝統こけしの常設展を行うほか、こけしの製作実演などのイベントも開催。その時工人たちが造った、だるまこけしが多数展示されています。伝統工芸の工人さんたちが造る個性があふれ表情豊かな姿を楽しめました。私は、だるまこけしを見るのは初めてでした。(豊島区巢鴨3-35-2)



崖の上で、長い顔して何見てるのよッ！（北区十条仲原4-6）



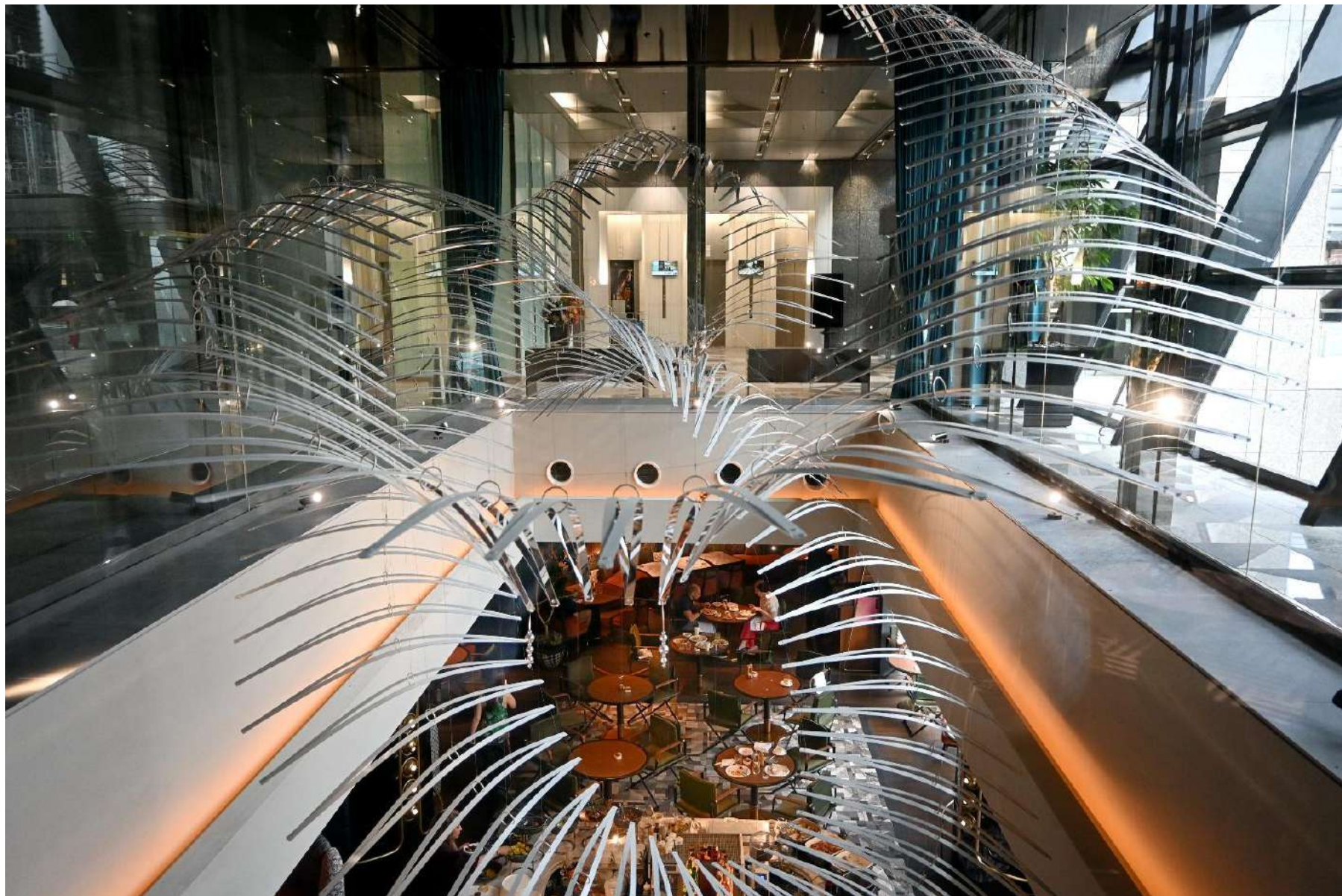
やぎりんさんから、国立近代美術館で戦争画展が開催され、藤田嗣治の戦争画も多数展示されていると、メールがありましたので、観に行きました。私は若い頃、藤田嗣治が太平洋戦争に突入した日本で、真剣に戦争画を描き「陸軍美術協会理事長」となり、終戦後日本において、そのことがあって「戦争協力者」と批判されることもあって、日本を去り、フランスに帰化しましたが、日本画の技法を油彩画に取り入れた、独自の「乳白色の肌」と呼ばれた裸婦像などを描く尊敬する画家として、戦時中どの様な戦争画を描いていたのか知りたいと思って居ましたので、長年の疑問を目の前にして真剣に考える機会を得ました。戦争は二度としてはいけないと思いますが、当時は、まじめに日本のことを考えれば、母国日本に貢献するには画家として当然だったと思うような戦争画です。



『1943年5月29日、アリューシャン列島のアッツ島で、アメリカ軍の攻撃により日本の守備隊が全滅した出来事が、敵味方の入り乱れる死闘図として描かれています。全滅は「玉砕」という言い方で美化され、国に殉じる行為が軍人の鑑であると報じられたため、藤田の絵は陰惨な図柄であるにもかかわらず、観衆に熱狂的に受け入れられました。同年9月の国民総力決戦美術展に展示された際には、作品の前に賽銭箱が置かれ、脇には藤田自身が直立し、観客が賽銭を入れると藤田がお辞儀をしたというエピソードもあります。コピペ』猫や美肌美人のムードを描く画家から想像もできない、まじめで真剣な人柄だったのだと納得をしました。



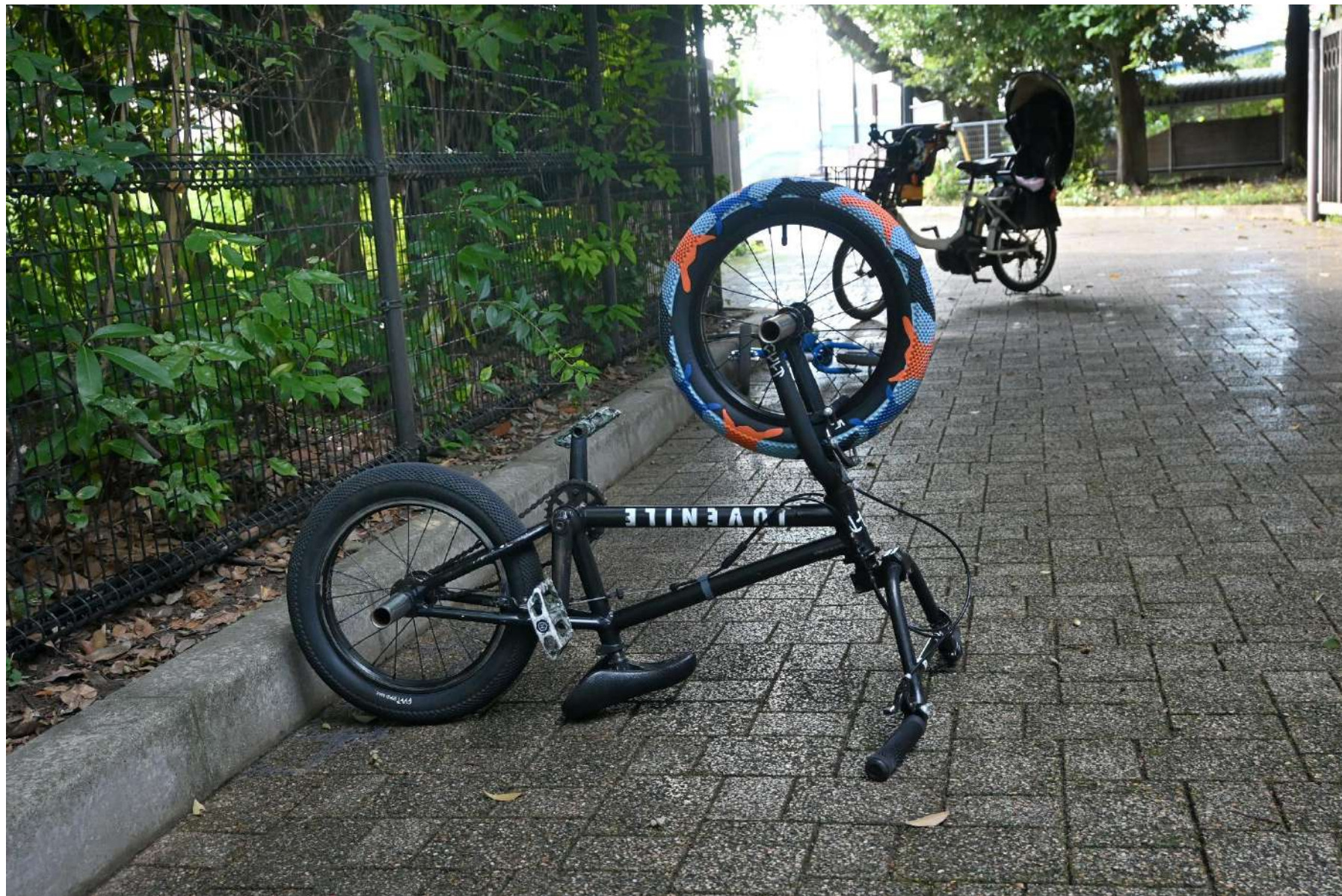
満朶(ばんだ)隊比島沖に奮戦す 宮本三郎画 特攻の表徴、「神風特攻隊」の攻撃を描いた絵です。今回の戦争画展には日本を代表する画家たちの絵が展示され、当時の日本画壇の興奮状態が良く見えます。私の知る有名な画家の作品が多数展示されています。戦争はいけない、ダメだ！と常に念じ平和の尊さを心に秘めて日々を過ごそうと改めて思いました。



内幸町平和ビルは、JR高架線前にあり、外観の窓に新幹線を映し、外からは何時も眺めているのですが、ビルの中に入ったことは無かったのですが、今日初めてドアを開いて中に入ってみました。外側に負けず、内部にも驚くような装飾で飾られていました。
(MERCURE HOTEL 千代田区内幸町1-5-2)



銀座四丁目和光には白い大きなキノコが飾られています。



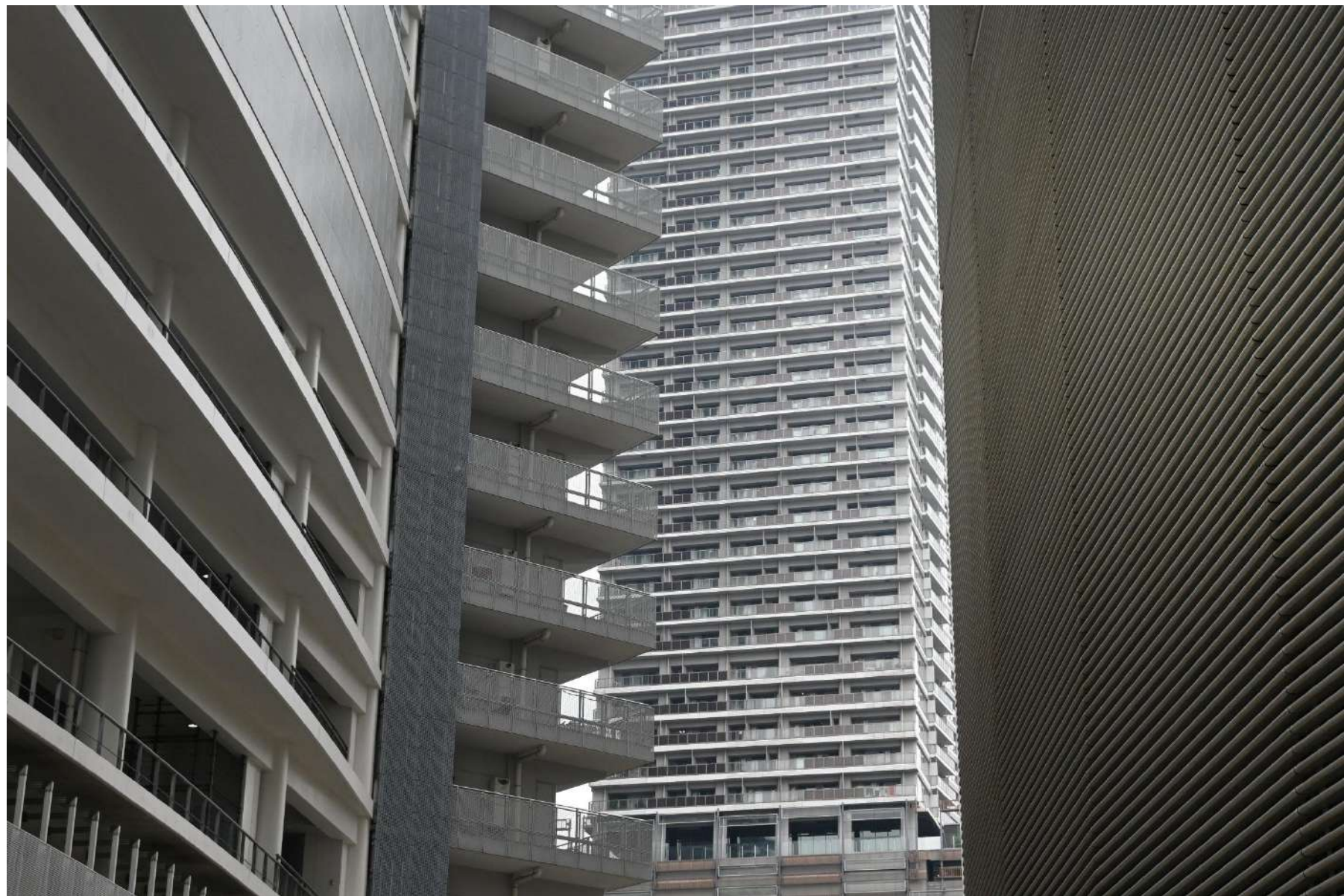
世の中変りました。駐輪の仕方が上下逆転、これがこの自転車の正当な駐輪方法なのでしょうか。(赤羽自然公園)



まるで化粧品売りの様な、個人宅の玄関前の多肉植物の陳列棚。今流行っているようです。(豊島区南大塚1-23)



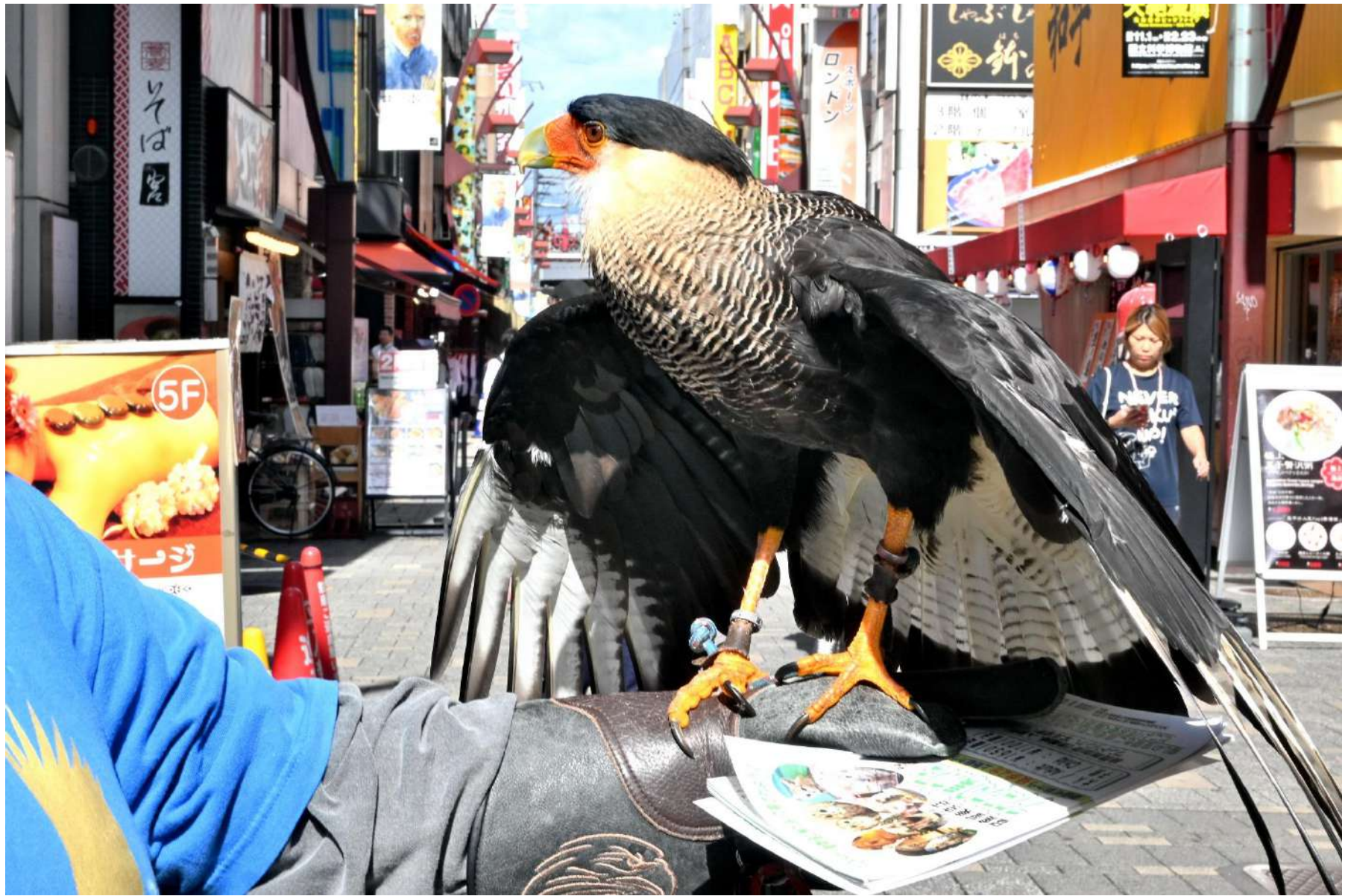
以前紹介したことのあるハレザタワーの男子トイレの壁画。(豊島区東池袋1-19-1)



無彩色。



色々派手なスカジャン。昔は、龍、虎、鷹、富士山でしたが、今はアニメのキャラクターですね。（上野アメ横）



上野アメ横で出会った、ハヤブサの仲間オージョボンカラカラ。フクロウの巣カフェの街頭デモです。なんと格好が良いのでしょう。
(台東区上野4-5-11)